



第115号

社会福祉法人
 ロザリオの聖母会
 発行者/細渕宗重
 千葉県旭市野中4017
 Tel (0479) 60-0600
 ホームページアドレス
<http://www.rosario.jp>
 Eメールアドレス
honbu@rosario.jp



戸塚記念館の桜

後援会会長就任にあたって

後援会会長 米本弥栄子

桜の開花も早まり温暖化の影響を感じております。何かと天候不順な日が多くすっきりした日がありませんが新型インフルエンザも下火となり春の訪れを感じるようになりました。この度、長年に亘

り後援会長として御活躍くださった芳野積善様が御勇退なされることでの後任の御推薦戴きましたが、もとより浅学非才の私にその様な重責を担う事が出来るかと不安が先立ち、少々考えさせて戴きまし

た。しかし、人間生きていくからには何かお役に立つ事が出来れば幸せと考えて御引き受けした次第です。さて、改めて考えてみますと、ロザリオ聖母会と私の接点は第一に私が地元出身で無い事、第二に旭市に嫁いでから十五年の勤務地が銚子であった事等から旭市立第一中学校校長として勤務した平成八年まで殆ん

ど無かった様に思います。旭一中校長時代には旭一中の生徒が施設見学等や体験学習をさせていただきました大変御世話になりました。体験学習により得られたものの大きさは、その後福祉祭りで活躍する子もおり、その後の彼等の行動に明確に表れておりました。大変有難く思っております。その様な中でこの度、会長という重責をお受けする事となり細渕理事長より記念誌等をいただき読ませていただきました。未だ全頁を読破してはおりませんが、ロザリオの聖母会の目指す方向の確かさ・・・あらゆる障害に対応しようとする姿勢・・・に心を打たれました。そして同時に御引き受けして良かったのか、私にその様な力があるだろうかと今一度の不安を持ったところです。どうか前会長であります芳野積善様、細渕理事長様、後援会やボランティアの皆様方、その他関係する沢山の皆様方御指導と御協力を心より御願ひし、一生懸命勤めさせていただきたいと思えますのでよろしく御願ひ申し上げます。最後に、ロザリオ聖母会の益々の御発展を御祈念申し上げます。

先人の足跡①

五日市霊園

理事長 細瀨宗重

本紙の編集員会から「創業者の精神を想起して次世代に継承していくために、旧文集の復刻、創立記念日行事、広報ロザリオ等を通じて法人の歴史や創設者の偉業に触れ、学習する機会をもうける」ことを提案された。その一環として、この広報ロザリオで先人を取り上げることを相談された。

自分がその任にふさわしいとは思っていないが、かといって他に適任者を探しても時の経過の中でなかなか難しいこともあるので、最善を尽くしてみることにした次第である。しばらくの間、シリーズでお届けしたいと思う。

このような職員の動きに呼応するように、ちょうど1月の理事会では、本会の敷地内に「先人の碑」を建てて、本会の事業にかかわった方々を記念し、この方々の努力の上に今日のロザリオの聖母会のあることを忘れないようにしよう、と話し合っていたところであった。この先人の碑についてはすでにい

ろいろ準備が進んでいるので、完成・ご披露の機会でも捉えて、改めて一稿を設けてお届けするようになりたいと考えている。

そもそも理事会が先人の碑を考えたのは理由があった。昨年11月に他界した和田前理事長の墓は東京都五日市（あきる野市）にあって、皆さんの気持ちがあっても、誰もが花を手向けることができるようなところではない。命日がきても、なかなか簡単には行けません。そのうち残念ながら、だんだん人の頭から離れていくことになります。

このお墓には、この62年間にロザリオの聖母会にかかわった人々のうち、その中核をなしてきた四人の方々が眠っています。なくなつた順に、中沢喜み子・小原ケイ・長岐久子・和田初枝です。この方々が、加速度的に忘れられていくのは少しでも防ぎたい、せめて近くに、命日にお花でも上げて想い出す場所がほしいというところから来ています。

1月の理事会ではこのほかに、今まで通称・海上寮聖堂と呼んできた御堂を「小原ケイ記念聖堂」と呼ばせていただくこととしました。そして和田理事長がお住まいにしていた建物は、「和田記念館」として整備し、ゲストハウス・遺体安置・会議・会食など、職員の皆さんに使っていただくこととし

第18回合同研修発表会

合同研修会実行委員長 聖母療育園 日高玲子

去る3月3日、毎年恒例の第18回合同研修発表会が開催されました。今年の施設紹介は、重症心身障害児通園施設佐原の「つどいの家」が行われました。そのあと六題の研究発表が行われました。

その中で季節的に新型インフルエンザ関係が一題あり、自立支援協議会の設立から今日に至るまでのが一題、活動について三題、佐原聖家族園の地域活動に向けての一題でした。

今年の理事長奨励賞は、海上寮療養所、並木満枝さんの「大根クラブ活動報告・『旬を味わう』」に決まりました。大根クラブ活動は

ました。患者さん・利用者・職員を問わず、特に最後の時を過ごすのは、聖堂と和田記念館をご希望でお使いいただき、ご家族も自由に宿泊できるようにいたしました。さらに、戸塚記念館（表紙写真）を整備中です。ロザリオの聖母会の歴史がここに集まるように、資料の提供など皆さんのご協力もお願い申し上げます。

以前から行っていたが昨年の文化祭の出店をきっかけに「手作りの野菜で出店」という目標を掲げることにより、意欲的に積極性が出ており充実した活動になった。今回の研究発表となり、結果理事長奨励賞になりました。また大根クラブに僅差でせまったのが佐原聖家族園の「地域移行に向けて」さわらきたハウスの取り組み「鈴木宏美さんでした。今年も無事に発表会が終えられたのは関係者各位の協力によるものと思います、合同研修担当施設として各施設担当役員皆様に感謝申し上げます、ありがとうございます。



「トリインフルはどうなった?」

海上療養所 医局長 佐多 範洋

昨年4月、突然あらわれて私たちをびっくりさせた新型フルも、今ではすっかり影をひそめてしまいました。ところで致死率60%と言われていたトリインフルはどうなったの?最終回では忘れないうちに今回の新型フルについて振り返り、今後のトリインフル対策について考えてみたいと思います。

トリインフルはいまだ健在

すっかり耳にしなくなったトリインフルですが、残念ながら世界からなくなったわけではありませぬ。特に冬場は、東南アジア諸国でニワトリの集団感染が毎日のように報告されます。殺処分をする職員と農家の人たちの小競り合いは気の毒です。そしてたまにヒトにも感染し、命を奪います(2010年は21人の報告があり、7人が死亡。3月16日現在)。

現在はまだ、ニワトリをさばくなど、感染した鳥と接触した人の感染がほとんどで、ヒトでの集団感染は起こっていません。しかし、

今回のブタインフルのように、ヒトでの感染拡大はある日突然起こります。感染しているトリをすべて処分できればいいのですが、もうあらゆる地域で土着化していてできないのです。

トリインフルの脅威がなくならないなんて…。いつ起こるか分からないトリインフルの流行に、私たちはどう備えたらよいのでしょうか。昨年の新型フル騒動から、幾つかのポイントを考えてみます。

マニュアル作りと臨機応変

ロザリオの聖母会では新型フル発生に備えて、行動計画作成や防疫訓練に取り組んでいましたが、実際発生したらマニュアルどおりにいかないこともたくさんありました。

大事なものは、臨機応変に対策を決めることです。ウイルスの性質、流行地域、世間の反応、政府の対応など、あらゆることがめまぐるしく変わります。情報を集めて状況に応じた対策をしていくことが、

とても大切です。

ただ、やっぱりマニュアル作りも必要です。臨機応変に対応するには、事前の準備や知識の向上が不可欠だからです。

情報共有は羅針盤

災害の際のトラブルの多くは、不安の高まりからくる人為的なものです。非常時に分からないことが多いと、不安はどんどん大きくなります。情報や問題を共有することは、私たちをよりよい方向に導いてくれる羅針盤の役割をします。

マスクが手に入らない

新型フルが発生し、はじめは10%近い致死率とも言われていましたが、買い占めで食料が枯渇するようなパニックは、震源地のメキシコでもほとんど起こりませんでした。

一方、マスクは数日で手に入らなくなっていました。ネットオークションでは一箱数万円なんてことも!食べ物と違って、マスクは特殊な工場で作るので、みんながいつせいに買うとすぐなくなるのです。マスクや手びかジェル

などは一冬分くらい備蓄し、毎冬消費・補充することをお勧めします。食料も各家庭においては、流行情に買い物してまわらなくて済むよう多少の蓄えがあった方がいいと思います。

やっぱり協力が大事

今回の新型フルでは、確認からほぼ24時間でWHOが緊急委員会を開くなど、人類の歴史上はじめて「リアルタイムで全世界が協力して、新しい感染症に対応した時」となりました。相手が感染症であっても、隔離や遮絶よりも協力し合うことの大切さを学びました。

今回の新型フルでは、5月に気づいたら大阪・神戸で数百人の感染者がいたのが、休校などでいったんほぼゼロにできました。致死率60%だと数百人に集団感染するまで気づかないことはあり得ないでしょうし、休校ももっと厳格に行われるでしょう。

致死率最大60%の感染症は怖いですが、でもその時も、協力し合うことを忘れることなく、新しい脅威を克服していきたいものです。

平成22年度事業計画の要点について

事務局長 野口厚司

2009年8月30日に行われた衆議院議員選挙において民主党が圧勝し、三党連立政権が発足して以降障害者自立支援法廃止の動きが現実化する中で、12月8日、内閣府に「障がい者制度改革推進本部」が総理大臣を本部長に全閣僚参加の下で発足しました。続いて、この推進本部の下部組織として「障がい者制度改革推進会議」が12月15日に設けられ、国連の障害者権利条約批准を前提とした障害者基本法の見直しや同差別禁止法、仮称：障がい者総合福祉法の制定など、国の障害者対策全般のあり方や方向性を対策本部に提言する役割を担うことになりました。

この会議の最も画期的な特長は、24人の委員中14人を当事者が占めていること、そして私たち事業者の代表が一人も含まれていないことにあり、このことは、本会議の議論や結論が当事者の意向を色濃く反映するものになることを示しています。

これまで「私たちぬきに私たち

のことを決めないで」と主張してきた当事者の口から議場が出る言葉の中には、「権利の主体」「医療モデルから社会モデル」「ソーシャルインクルージョン」「合理的配慮」「地域移行」等々、これからの障害・障害者観や対策のあるべき姿を指し示すキーワードが含まれており、熱心に展開される議論からは、障害者対策のパラダイム転換を現実のものにしようとする強い意気込みがうかがえます。

私たちはこれらの議論、発言を謙虚、真摯に受け止める必要があると同時に、委員の中には施設入所（入院も含めて）を「特定の生活様式を強いる」ものとして否定的かつ人権問題としてとらえる方がいることを深く認識して、当事者の方々から指摘されることのないような対利用者サービスを提供していく必要があると思います。

法人内に目を向けると、昨年秋季に創業者の一人であった和田前理事長が亡くなり、1947年から

60年以上に渡ったロザリオの元后会（旧法人名）設立者の系譜は区切りの時を迎えることになりました。この法人史的転換期を新理事長体制の下で迎える22年度は、私たちに改めて先人の想いや業績を継承するという責務が課せられています。

また、昨年度知的障害系3施設が第三者評価を受審しましたが、その評価結果には私たちが気づかなかつたいくつかの貴重な指摘があり、同時に法人レベルで行った利用者等アンケートでは生活の基本的な部分に不満足度が高いことを知りました。

このような内外の情勢・状況を踏まえたロザリオの聖母会22年度事業計画の特長には、次の点が挙げられます。

○創業者の前理事長が亡くなり、新理事長体制下で迎える初年度であること。

○政府の政権交代により福祉を取り巻く情勢が大きく変わりつつあることに関して全施設・事業所が認識を深める必要があること。

○障害者自立支援法廃止の下で、

旧法施設が新体系事業移行にどう対処するかの見極めが重要な課題になること。

○前年度受審した第三者評価や利用者アンケート結果を目標に反映させたこと。

○創業者の精神や業績を偲び、継承するための事業を実施すること。

また、これらの特長を内包した三目標を次のとおり設定しました。

1 新法（仮称：障がい者総合福祉法）制定の動向を注視しつつ、利用者等の意向を尊重した施設運営とサービスの質向上に努める。

この目標では、昨年度に引き続いて「個別支援計画の全体的点検と内容の充実」を挙げたほか、利用者等の意向を尊重した施設運営とサービスの質向上を実現するために「利用者アンケート調査を踏まえた業務改善」や「自己評価、第三者評価を踏まえた業務改善」に関する目標を設定しました。具体的課題としては「風呂・トイレ等水回りの環境改善」「食事サービスの改善」を全施設・事業所の共通課題として取り

組むこととなります。

その他「安定的な人材確保に向けた対策」「施設・設備の老朽化や環境改善対策の中・長期計画と資金確保」「社会福祉法人の新会計基準（24年度移行見込）の調査・研究」などを目標として掲げました。

2 人事考課、研修等をとおして 組織内コミュニケーションの 向上及び職員の育成・意欲向 上を図る。

この目標では、「組織内・外のコミュニケーション向上の取り組み」を全施設・事業所共通目標として掲げ、組織内においては縦・横・斜めの間関係を円滑に進める努力、外部に対してはホスピタリティー向上に向けた努力を全体的な取り組みとします。

また「事業計画の法人・施設目標と個人目標との整合と具体性重視」「人事考課表の意見・要望欄等を活用した個々の意見吸い上げ」「職員の合意に基づいた組織の意思決定推進」は第三者評価の指摘に基づく目標設定であり、「研修体制及び内容の充実に向けた対策」「中間管理職育成のための法人内人事交流やキャリアパス制度の研究・検

討」は法人運営上必要に迫られた課題として挙げました。

3 新型インフルエンザ対策など 法人の総合的な安全衛生対策 の向上を図る。

この目標では、21年度の新型インフルエンザへの対応に学んで、更に「豚インフルエンザ対策の徹底」を図ること、また、「豚インフルエンザの経験を踏まえた鳥インフルエンザ対策の見直しと充実」については、食料等備蓄量や勤務体制の見直しを含めたマニュアルの再検討など、総合安全対策委員会公衆衛生部を中心に全施設・事業所が足並みをそろえて取り組み課題としました。

その他、「利用者安全対策向上のための具体的な取り組み」では、災害・感染・サービス提供上の事故・不審者の侵入・行方不明等施設個々の実情に基づいて設定し、また、「安全運転対策向上のための具体的な活動」「消防法改正に呼応した防災対策の改善」「IT等のセキュリティ強化」も事実を踏まえたより効果的な対策が求められます。

以上の目標を盛り込んだ22年度事業計画は、むこう一年間私たちの指針となるものです。職員各自

が身近なところに置いて、日常的に達成度を評価するなど有効に活用しましょう。

ワークセンター 新任所長挨拶

ワークセンター所長 齋藤惣一

私は平成3年に生きがいを求め、ロザリオの聖母会の門を叩きその後的人生が大きく変わって行くことになりました。毎日が楽しく新鮮そのものでしたが、家庭の事情で退職を余儀なくされました。平成15年に再入職し聖家族作業所、聖家族園、香取ネットワーク、ワークセンターと合わせて6事業所に在籍し数々の出会いや悲しい別れを体験致しました。事例としては家族の崩壊、虐待、ホームレスと上げれば限りがありません、どれをとっても人の生死が伴い難問ばかりでしたが、その度ごとに新しい出会いがあり支援者の輪が繋がって行き、問題解決の道が開けて行きました。福祉職のみなさんは勿論、行政の方、病院のDr、法律家、民生委員、各種学校の先生あらゆる階層の皆様がた、この場を借りてお礼を申しあげます「ありがとうございます

うございました」。結局、私が支援したのではなく、私が支援されたところではなく、私が支援された常には発生する、幸福とは常に相談できる相手がいること」その後3年余り勤務した香取ネットワークからワークセンターに異動命令が下り21年10月より新天地に越してまいりました。印象として事務所は狭く、各所ぼろぼろ状態ですが、作業中のみなさんの様子は懸命に仕事に向かいあう姿勢が好印象でした。ある時理事長が来所された折、作業風景をみて「気持ちがいいなー」とおっしゃったことが心に残ります。現在ワークセンターでは、すべてが調っていると、言い難いですが、ここに関わる全ての方々の福祉に対する情熱と信念を持ち、又寄り添って、問題や困難に立ち向かって行きたいと思えます。

働く（生きる）ということとは 学び続けるということである

—豊かな人間である為に—

研修課長

伊藤幸子

尊敬する先輩から、「患者さん達は、あなた方の人間性を信頼して、お世話をさせて下さっているのですから、自分の人間性を磨きなさい。」と教えられた。人間性は、専門職としての知識と技術に裏打ちされていることは、もちろんのことである。

人間性を磨くということは、「人間としての質を高めるということであり、人間として豊かになるということではないか」と私は考えている。それは、終わることのない学びである。

「人間性を磨く」ことばでは簡単なことだけど、何か雲を掴むようなことでもある。

30年ほど前、ある研修を受けて、「自分の人間性を磨く」ということは、「自分を知る」ということから始まる、ということに気付いた。自分は、人と関わる時どんな癖があるか。どんな姿勢でものごとに向かい合っているか等など。専門的な知識、技術、社会人としてのありよう等など。自分を知ること

は、本当に難しい課題である。

8年ほど前、ロザリオの聖母会の研修に携わることになった時、利用者さんのお世話をさせていた多くの人達と、共に学ぶ基本として

「自分の支援者としてのあり方を見つめてゆくこと」を基本におくと考えました。年度別研修5年間のうち、4年間はケーススタディをすることで、支援の知識、技術、態度はもちろん施設スタッフとの連携、協力等、お互いに支えあうことが学べると考えました。

今年、5年間の研修が終了した、17年度入職者の研修集録の4年間分を、読んでみると、一人ひとりの成長が良く解ります。職場の先輩の指導を受けて、新しい気づきに、支援が深まった人、職場の他職種の方々との連携により、利用者さんの生活が豊かになったと、自分のことのように喜んでいたりなど、年度別研修の5年間で終了した時、本当の意味での自分自身の学びが始まると考えます。人間性を豊かにする為の学びは、生き

ている限り続くと思うからです。細川理事長が、就職内定者の研修で毎年話されることですが（3月の主任研修でも話されました）「人間は完結しない。もし完結することがあれば、お互いに手を取り合っていて、同じ目標に向かって歩いている時です。」と。「ゆつくりでも良いから前進すること」ing たゆま

ない歩み、目標に向かって、というものである。その目標は、一人ひとり自分を豊かにする為にかかっているものである。利用者さんに信頼してもらえ豊かな人間になる為に、自分にあつた目標を掲げて、歩き始めましょう。きっと豊かな人生が待っています。

寄付者御芳名

（平成21年12月21日～平成22年3月17日）

レデンプトリスチン修道院 高尾 早苗 白百合幼稚園 丸山 智靖 八日市場瓦斯株式会社 (株)丸 平 畠山 アイ子 林 緑 聖心女子学院 五月会 外岡 則子 小宮 和彦 深堀 忠男 畔蒜 良平 伊藤 登美子 (有)旭家政婦紹介所 (株)伊藤工務店 (株)網中建築設計事務所 石橋 競 菅澤 功 飯島 節男 椎名 一三 篠塚 弘作	インテリア 謙光 加瀬 謙一 竹下 設計 竹下 衛司 鈴木 快子 宇田川 秀雄 井橋 千代子 川長 商店 奥村 利夫 鈴木 義昭 鈴木 宏美 宇井 千代子 高橋 克己 大里綜合管理(株) 代表取締役 野老眞理子 石井 禎子 竹中 稔 鈴木 純 かどみせ文具店 飯島 重雄 小島 昭三	高野 丈夫 岩井 庄一 佐々木 日出男 安原 包夫 宮澤 均 鶴澤 かね 石井 幸子 伊藤 房吉 中澤 公一 松田 昭夫 魚山 秀子 井上 敬三 土手 孝一 旭 市 長 佐多 範洋 聖心女子学院 大崎 健司 旭ロータリークラブ 田中 久直 島田 ミサオ 斉藤 テルエ 野口 厚司	荒井 輝男 飯笹 良雄 野崎 仙太郎 野崎 義雄 高山 正代 日本カーソロジー(株) 柴崎 恵美子 佐々木 日出男 聖心女子学院もゆる会 ヒゲタ 醤油 (株)ドーシス 金床 書店 寺嶋 善作 市来 満里子 高梨 喜久男 笠島 努 日本原子力発電関連 企業労働組員総連合 松原 晴美 西野第三班 21年度組長 平川衛 (敬称略)
--	---	--	--

ご寄付に感謝

聖家族作業所

千葉県共同募金会より

千葉県共同募金会より、平成21年度NHK歳末たすけあい義援金の配分を受け、聖家族作業所の食堂に42型プラズマテレビを設置させて頂きました。余暇活動ではこのテレビにカラオケを繋いで、利用者の皆様で楽しく歌っています。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

日本財団よりマイクロバスの助成

日本財団からの助成を受け、マイクロバス一台を整備させて頂きました。ピカピカの新车という事で利用者の皆様からは大変好評を得ており、日々の送迎業務以外でも外出やドライブ等大活躍されております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



社団法人千葉県社会福祉事業
共助会 長期在籍会員顕彰
金子良江

新任者紹介

准看護師



衣川 典子

趣味はショッピング。今までの外来経験を生かし、利用者にも慣れやすく対応してくれています。

調理師



石橋 良昌

趣味はスノーボードの行動派。聖母の利用者さんに美味しい食事を提供したいと日々奮闘中。きっと利用者さんの笑顔が見られることでしょう。

作業療法士



大木 恵

今年から聖マリア園で、作業療法士として働くことになりました。元氣よく頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

支援員



伊藤 里奈

2月より常勤になりました。ふんわりした空気をもった癒し系の方です。

今年度の 新入職員

准看護師



石井 章代

野球、陸上をしている2児の母です。御指導宜しくお願ひします。

准看護師



向後 知恵

明るく人見知りもなく誰とでも話せる性格なので気が合う声をかけていただけたいです。

支援員



石毛 亘

パンダの様なタレ目特徴です。陸上競技で培ったパワーを仕事に活かしたいです。頑張ります！

支援員



遠藤 慶一

人と接することが好きで、人との関わり合の中で、心を通わせることを目標にしたいと思っています。

支援員



大椋 将大

利用者の方々に、一日でも早く信頼して支援を任せて頂くことが出来るように努力します。

作業療法士



今関 高明

一大決心をしてOTになった釣り好きの元寿司職人です。思いやりをもって接していきたいです。

支援員



五木田 志保

おっとり、マイペースですが頑固だったりします。これから時間をかけて利用者さんと信頼関係を築いていきたいです。

支援員



高木 寿英

皆様に信頼して頂けるような存在になれるよう努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

支援員



岩田 竜也

元気が取り得ですがこれがから支援員として、社会人としてがんばります。

シキチン金持ち



逸見 諭

佐原育ちの31才。東京で8年間の知的障害者の方の支援にあたってきました。宜しくお願ひ致します。

臨床心理士



松尾 真裕子

岐阜で生まれ、埼玉、東京を経て旭にやってきました。笑顔と元気を心がけ頑張りたいと思ひます。

聖マリアデイサービスセンター

聖家族園

聖家族作業所

佐原聖家族園

香取GH支援センター

法人本部

行事予定

- 22. 4. 1 平成22年度辞令交付式
- 5 法人春の交通安全週間
- 7 経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会
- 8 決算事務研修会
- 9 海上療養所管理棟竣工祝別式
- 14 経営会議
- 21 法人運営会議、経営会議、職員等健康診断
- 22. 26. 28 職員等健康診断
- 28 地域生活支援会議
- 5.12 経営会議、研修委員会
- 19 法人運営会議、経営会議
- 26 理事会、評議員会、地域生活支援会議
- 6. 2 経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会
- 9 経営会議
- 12 安全運転講習会
- 16 法人運営会議、経営会議
- 19 後援会役員会、ロザリオ福祉まつり実行委員会
- 23 地域生活支援会議
- 7. 7 地元説明会、経営会議、対策本部会議、総合安全対策委員会
- 10 就職説明会
- 14 経営会議
- 21 法人運営会議、経営会議
- 28 理事会、地域生活支援会議

社会福祉法人

私たちは多くの場合、組織的に仕事をします。それを会社といったり、組合といったり、機構といったりします。

私たちの場合は「法人」といいます。私たちの組織を「人間」になぞらえているのです。ロザリオの聖母会全体をひとりの人・ひとつの体と考え、それぞれの職員の役割分担は違いますが、全員がいて「ひとりの人」としての目的を達成するように考えられているのです。

これは古代ローマの神話から、

ローマ法・欧米法を経て日本に入ってきた考え方です。

ひとりの人は、指が怪我すれば指だけが痛むのではなく、体全体がずきずき痛みます。歯が痛めば、歯だけが痛むのではなく、まさにその人の痛みです。

そのようにして、社会福祉法人を構成する私たちは、職員全員で「ひとつの体・ひとりの人」を構成し、職員の喜びも、苦しみも、全員のものとしていけたらいいなあと思っています。(ほ)

専用メールアドレスのお知らせ

ご意見、ご感想のある方は下記のアドレスまでお願いします。

koho@rosario.jp

ボランティア募集のお知らせ

ロザリオの聖母会では、施設行事のために常時ボランティアを必要としています。

関心のある方は是非、ご連絡ください。ご協力をお願いします。問い合わせ

TEL 0479(60)0600 (担当 仲條)

看護職員募集のお知らせ

精神科、障害児者医療に携わる看護師を募集しています。

◆随時面接を行っておりますので、本部総務課までご連絡ください
TEL 0479(60)0600 (担当 採用係)

編集後記

▼最近、身体の衰えを感じる機会が多い。それでも、タバコをやめる気は全くないし、夜型の生活を改める気もなし。10年前が懐かしい。(T・I)

精神科・内科(医療保護施設)

海上療養所

精神障害者通所授産施設

ワークセンター

地域生活支援センター

友の会

重症心身障害児施設

聖母療育園

重症心身障害児通園施設

聖母通園センター

障害児デイサービス

ふたば保育園

身体障害者療護施設

聖マリア

生活介護事業所

聖マリアデイサービスセンター

知的障害者更生施設

聖家族

知的障害者通所授産施設

みんなの家園

障害者就業・生活支援センター

東総障害者就業・生活支援センター

生活介護事業所

聖家族作業所

高齢者支援事業

ロザリオ高齢者支援センター

ロザリオ訪問介護事業所

中核地域生活支援センター

海匝ネットワーク

旭市相談支援事業

旭障害者支援センター

共同生活介護・共同生活援助事業所

グループホーム支援センター

知的障害者更生施設

佐原聖家族園

重症心身障害児通園施設

つどいの家

共同生活介護事業所

ケアホーム香取

香取市相談支援事業

香取障害者支援センター